だいぶ

飯塚市立大分小学校学校通信
第10号令和7年2月3日発行
左のQRコードでホームページも
併せてご覧ください。
発行者：校長　近藤　義徳

がん教育

１月２７日（月）に６年生ががんについて学習しました。保健師さんとがんを経験された方に、がんについて説明していただきました。

学校における健康教育は、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育成することを目指しています。文部科学省が設置した、有識者による「がん教育」の在り方に関する検討会の報告書には、生涯のうち国民の二人に一人がかかると推測されるがんは重要な課題であり、健康に関する国民の基礎的教養として身に付けておくべきものであると述べられており、学校における健康教育においてがんを取り上げた教育を推進することは健康教育を推進する上で意義があると考えます。

子どもたちが、がんについて学んだことを契機に、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるようになって欲しいと思います。

子どもたちは、「がんは思っていたよりも身近なことが分かった。私は、絶対にがんになりたくないので、できる予防をしたり、健康診断をちゃんと受けたりしたいと思う。身近な人がもし、がんになってしまったら、今日のことを思い出して、相談できるところがあることを教えたり、自分が少しでも力になれるようになったりしたい」、「二人のうち一人ががんになり、身近であることが分かった。がんになってしまうことはあるけれど、がんになるべくならないようにするために、「適度な運動」「バランスのとれた食事」「飲酒は適量まで」「たばこをすわない」ことを大人になっても忘れないで、今できることをしようと思いました。そして、２０才になって、自分でもがんになっていないか確認するためにがん検診を受けようと思う」と振り返っていました。

入学体験

１月３１日（金）に来年度入学に向けた説明会を実施しました。本年度も、来年度入学する子どもも来校してもらい、１年生と５年生と交流しました。まず、５年生が各教室等を案内しながら説明しました。次に、１年生が呼びかけをしたり朝顔の種をプレゼントしたりしました。

給食週間の取組

学校給食は子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるために重要な役割を果たしています。そのため、文部科学省は、このような学校給食の意義、役割等について児童生徒や教職員、保護者、地域住民等の理解と関心を高め、学校給食のより一層の充実と発展を図ることを目的に、毎年１月２４日から１月３０日までの１週間を全国学校給食週間として定めています。

本校では、この期間、子どもたちに学校給食の意義や役割について、理解を深めさせるとともに、味付けや衛生、時間などに気を配って給食調理業務に従事している調理員に、改めて感謝する気持ちをもつことができるように、次のような取組を実施しました。

- ○１月２４日、２７日の給食時間に、給食担当の職員が学校給食の歴史や給食にかかわる方々について説明する。
- ○１月２７日、２９日、３０日の昼休みに、給食委員会の児童が、各学級に出向き、調理員の仕事、栄養のバランスなどについて説明する。
- ○１月２８日の給食時間に、放送委員会の児童が調理員に調理に関することや気持ちなどについてインタビューした内容を放送する。
- ○１月３０日の給食後に、いつもおいしい給食を作ってくれる調理員に感謝の気持ちを伝えるために、学校給食感謝の会を行い、各学級で書いた手紙や感謝の言葉を書いたカレンダーなどを送る。

子どもたちは、「おいしく栄養バランスを考えて、６年間、毎日作ってくださったことに感謝します。卒業まで残さずおいしく食べたい」などと話していました。

【2月の主な行事予定】

２月　３日（月）安全点検の日、友だちアンケート実施日
２月　７日（金）授業参観、懇談会、学校運営協議会
２月１８日（火）６年劇団四季鑑賞
２月２０日（木）学校安全の日
２月２７日（木）３年歴史資料館見学